

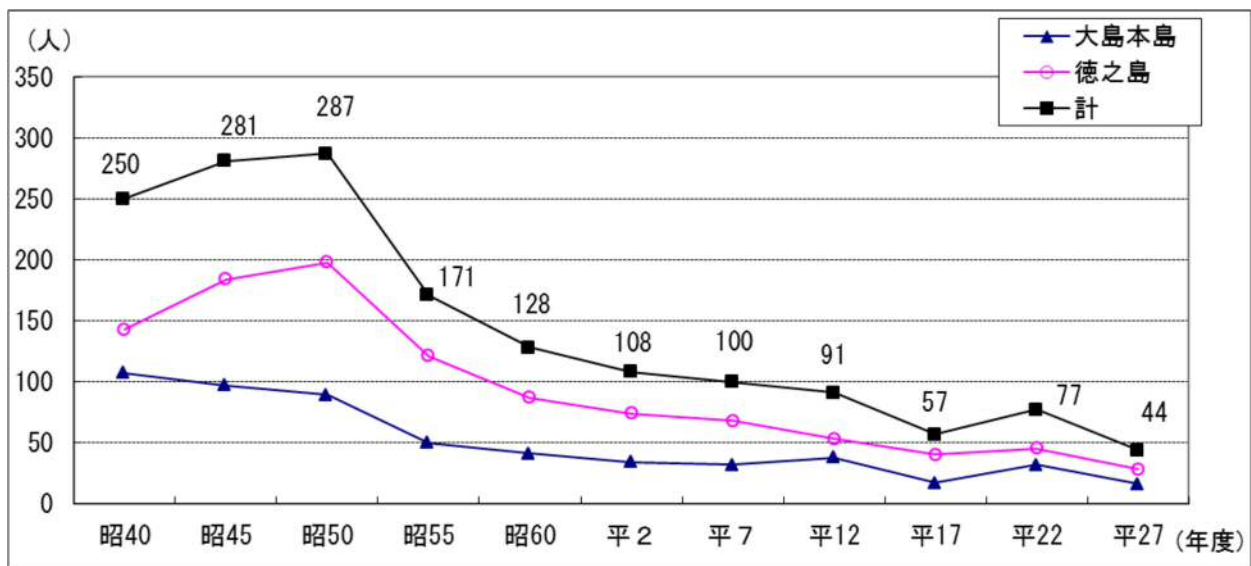
3 地域に特徴的な疾病等

ハブ咬傷

【現状と課題】

- ハブは、奄美群島の奄美大島、加計呂麻島、請島、与路島及び徳之島に生息し地元住民の生活に脅威を与え、産業振興にとって障害となっています。
- ハブの咬傷者数は、昭和の頃と比較すると大幅に減少していますが、近年においても依然として50人前後で推移しており、平成27年度は44人が被害にあっていました。また、平成26年度にはハブ咬傷による死亡事例が発生しました。
- ハブ咬傷者を減らすために、ハブ個体数を減らす「ハブ捕獲奨励買上事業」を市町村と協力して実施しており、平成27年度は約2万6千匹の生きハブの買上が行われました。また、ハブ咬傷予防講習会を平成29年度は50回実施しました。
- ハブ咬傷緊急治療体制を確保するため、圏域の医療機関等（33ヶ所）に「はぶウマ抗毒素」を配備しています。

【図表4-3-1】年度別ハブ咬傷者発生状況



(大島本島は加計呂麻島、請島、与路島を含む)

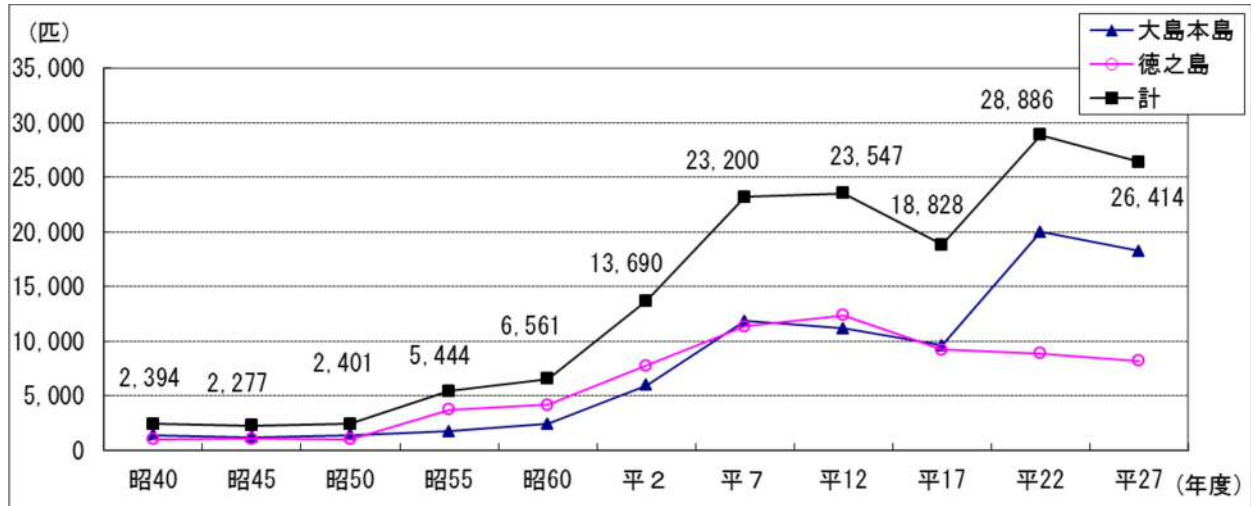
[大島支庁衛生・環境室作成]

【図表4-3-2】ハブ咬傷予防講習会

対象	年度	平成28年度		平成29年度	
		回数	参加人数	回数	参加人数
学 校		38	2,163	31	1,310
そ の 他		15	454	19	350
合 計		53	2,617	50	1,660

(学校には、保育所を含む) [大島支庁衛生・環境室作成]

【図表4-3-3】年度別生きハブ買上数の実績

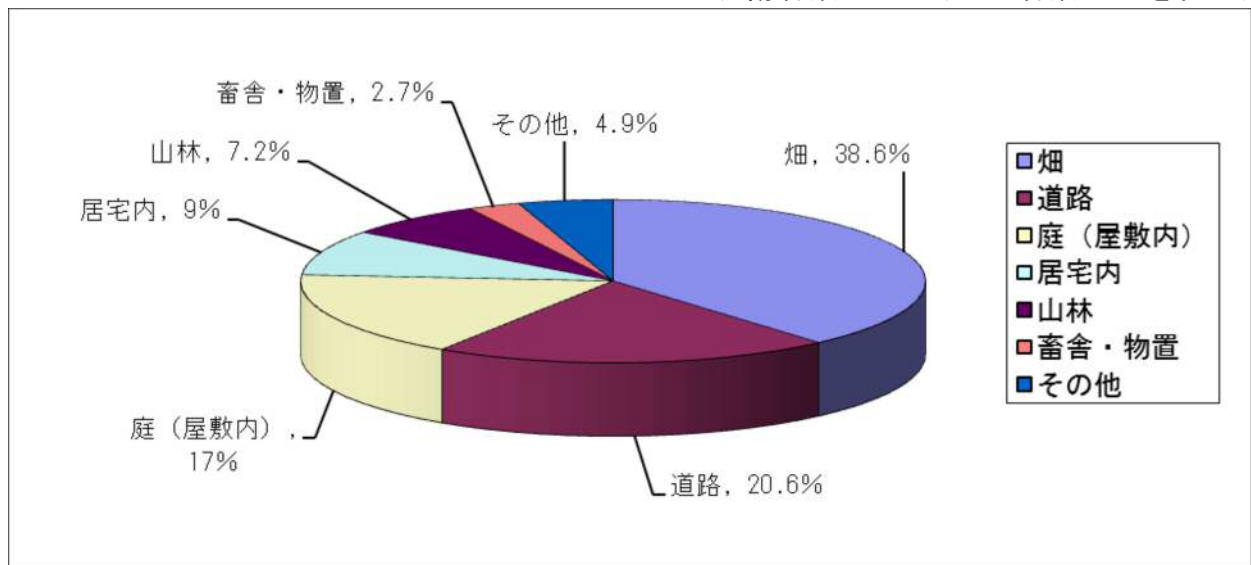


(大島本島は加計呂麻島, 請島, 与路島を含む)

[大島支庁衛生・環境室作成]

【図表4-3-4】場所別咬傷者発生状況 (平成25年度～平成29年度)

咬傷者数223人 (死亡者数1人を含む)



[大島支庁衛生・環境室作成]

【図表4-3-5】市町村・施設別はぶウマ抗毒素の配備状況 (平成30年4月1日現在)

(単位: 箇所)

保健所	市町村	役場	病院・診療所	福祉施設等	合計
名瀬	奄美市		12 (39)		12 (39)
	大和村		1 (2)		1 (2)
	宇検村		1 (2)		1 (2)
	瀬戸内町	1 (10)	7 (16)	1 (2)	9 (28)
	龍郷町		3 (6)		3 (6)
	小計	1 (10)	24 (65)	1 (2)	26 (77)
徳之島	徳之島町	1 (12)	3 (19)		4 (31)
	天城町	1 (2)	1 (2)		2 (4)
	伊仙町		1 (2)		1 (2)
	小計	2 (14)	5 (23)		7 (37)
計		3 (24)	29 (88)	1 (2)	33 (114)

(注) () 内は抗毒素配備本数

[大島支庁衛生・環境室作成]

【施策の方向性】

ア ハブ駆除対策の推進

- ハブ捕獲を奨励し、ハブ個体数を減少させ咬傷者を減らすため、引き続き、市町村と協力して生きハブの買上を実施します。

イ ハブ咬症対策の推進及びハブ咬傷緊急治療体制等の確保

- 住民、児童生徒、ツアーガイド等を対象としたハブ咬傷予防講習会等を開催し、ハブ咬傷の危険性と予防法や携帯用毒吸出器等の使用による応急処置法の普及啓発を行うとともに、観光客等に最新のハブ情報の提供、発信を行います。
- 緊急治療体制の充実を図るため、「はぶウマ抗毒素」の購入配備を引き続き実施するとともに、医療関係者を対象としたハブ咬傷治療法の普及を図ります。
- 人とハブとの棲み分け及び「はぶウマ抗毒素」改善のための研究などを積極的に推進していく必要があります。

ハブ対策の概要

駆除対策

- ・ハブ動態制御研究
(生態・環境調査)

捕獲奨励生きハブ買上

- ◎ハブ個体数を減少させることにより咬傷機会の減少を図る
- ◎咬傷時の治療薬を改善するための研究、治療用血清の購入配備による治療体制の充実及び咬傷による重症化の防止を図る

咬症対策

- ・ハブ毒免疫機序研究
- ・研究用生きハブの買上
- ・抗毒素の購入・配備



住民が安心して生活できるように、生活環境からハブを除去するための調査を進めるとともに、ハブ咬傷の予防及び治療対策等に万全を期する